

記事掲載：2022年4月

翻訳：2022年5月

中央アフリカ共和国の未来を守る



背景：

中央アフリカ共和国は、世界で最も深刻で長期化した人道危機に直面しています。1960年の独立以降クーデタが頻発してきましたが、2013年にボジゼ政権が反政府武装勢力セレカによって瓦解された後も不安定な政治状況が続き、武力集団間の戦闘が繰り返し発生しています。今なお、殺害や誘拐、略奪などによって子どもたちの安全が脅かされている状況にあります。長年にわたる紛争によって、多くの学校が武装集団に占拠されていることもあり、教育へのアクセスは限られ、資格を持ちトレーニングを受けた教員や、学習教材も不足しています。

9歳のマルグリット・ドゥムケルは、中央アフリカ共和国のウハム・ペンデ州パウアの教室で、友達と一緒に座っています。

笑顔でその日の授業で勉強したことをノートに書き込みます。マルグリットは「歴史とフランス語の勉強が好きです」と話します。

パウアのような地域では、紛争による社会の混乱や武装集団の介入によって、子どもたちの教育が何度も中断され、マルグリットのような何百人もの子どもたちは何か月も学校に通っていません。

「兵士がいると、私たちは学校へ行きません。家にいるようにします。でも、今、教育を受けることができ幸せです」とマルグリットは話します。

緊急事態や長期化する危機における教育のための国連の国際的な基金である、[「教育を後回しにはできない基金（Education Cannot Wait : ECW）」](#)の出資により、マルグリットをはじめとする何千人もの子どもたちが学校に戻って、教育を受け続けられるようになりました。

ECW は、[ノルウェー難民評議会](#)、[プラン・インターナショナル](#)、[ユニセフ](#)、[UNHCR](#) が実施する[複数年レジリエンスプログラム（MYRP）](#)を通じて、中央アフリカ共和国の難民や帰還民の子どもたちが、インクルーシブかつ安全で守られた学習環境で教育を受けられるための支援に資金援助しています。

ECW は過去 3 年間、中央アフリカ共和国の地域社会を支援し、126,300 人以上の子どもたちに手を差し伸べてきました。



© Zigoto Tchaya Tchameni (Zigi) /CAR

女の子たちと話す ECW 事務局長のヤスミン・シェルフ氏

「年度の始めは学習に必要な物が無かったのですが、（ECW からの資金拠出を受けた）ユニセフが学校に学用品や教材を配布してくれたことで、本や文字を書くための石板をもらうことができました。正しく字を書けるようになったので、家では妹と一緒に先生ごっこをしています」とマルグリットは言います。

ユニセフ中央アフリカ共和国事務所の教育マネージャーであるノエミ・ロビアティ氏は、新型コロナウイルス感染症や選挙後の治安危機によって引き起こされた全国規模の学校閉鎖や、教育の混乱という危機的な事態に対応するためにも ECW の資金が不可欠であると述べています。

さらに、ECW の支援は、全国のラジオ局での授業の放送や、授業が事前に録音されたラジオを家庭や学校に配布するなど、ラジオ教育の拡大に役立ったとノエミ氏は話します。教育は人権であり、ECW の資金は中央アフリカ共和国の子どもたちの基本的権利を守るために重要な役割を担っています。

ノルウェー難民評議会は、ECW の資金によって学校に通えていない子どもたちに教育を提供している、と同会の教育専門官であるシャネル・ンタフバ氏は話します。

「私たちは、これまで学校に通う生徒たちを支援してきました。同時に、（ECW の資金によって）学校に通えていない生徒たちも支援しています。学齢期を過ぎた子どもたちへの速習型学習プログラムの提供や、紛争のために数週間または数か月間学校を休んだ子どもたちへのキャッチアッププログラムの提供を実施しています。」



© Zigoto Tchaya Tchameni (Zigi) /CAR

教室で楽しそうに笑う子どもたち

ンタフバ氏は、教育に割り当てられる公的予算は少なく、2019年にはGDPの1.6%、公的支出の13.3%だと話します。そのため、子どもたちが学校に行けるように、コミュニティが教員を雇っています。

（翻訳注：SDGs採択後に新たに設定された「な「教育 2030 行動枠組み」では、各国がGDPの4-6%、公的財政支出の15-20%を教育に支出するという目標が設定されている。」

ンタフバ氏によると、教員たちは、政府からではなく住民の寄付によって給料をもらっているとのこと。しかし、住民の家計が苦しい状況では、教員たちに定期的に給料を払う余裕はありません。

「そのため、ECWは、速習型学習プログラムやキャッチアップクラス、ユースクラスの教員給与の支払を支援してくれています」とンタフバ氏は話します。



教室で授業を受ける男の子

さらに、ンタフバ氏は、このプログラムは教育の質を向上させるために、教員のトレーニングを支援していると言います。「授業内容だけでなく、授業の準備や発表の仕方も含めて、先生をトレーニングしています」

パウア校の教員であるジャスティン・バングレヤ氏は、トレーニングを受けたことに加え、このプログラムが教員に提供する給料は彼女の生活に大きな影響を与えたと言います。また、子どもの教育費を払えない親にとっても、経済的負担が軽減されます。



石板を見せる生徒。石板で字を書く練習をしています。

「多くの親は子どもを学校に行かせず、家事や庭での作業、農作業をさせたがります。その結果、子どもたちの教育の機会を奪っています」とンタフバ氏は言います。この課題を解決するため、ECW は子どもを学校に通わせるための啓発キャンペーンにも資金を提供しています。

【翻訳前の記事（英語）】

<https://ecw.exposure.co/securing-a-future-in-the-central-african-republic>

※こちらの記事のオリジナル版は、Inter Press Service によって執筆されました。

オリジナル版はこちら：

[Education Cannot Wait Secures Future of Children in CAR Conflict Zones | Inter Press Service \(ipsnews.net\)](#)